

ガーナでそろばんプロジェクト 90 号(2021 年 2 月 13 日)

★★コロナ禍だからこそ気づいた新しいそろばん指導のかたち★★

全世界がコロナ禍となりまもなく一年が経とうとしていす。一年前のこの時期はまだアフリカにはコロナなんて入ってこないだろうと何の根拠もなくそう思い込んでいました。まさかそれから一か月後にガーナにコロナ患者が発生し活動が止む無く休止されるなんて夢にも思っていまませんでした。私が一年前のこの時期、思い描いていたことは、次回のそろばん教室つまりあと一回の開室で、そろばん教室を始めてから 300 記念を迎えるので、その記念すべき日のそろばん教室をどう盛り上げるかそればかり考えていました。ずっと頑張ってきた子どもには記念に人気のマラソン、Tシャツを贈ろうとか、そろばん教室を辞めてしまったけれど過去の生徒で頑張ってきた暗算まで出来るようになった子どもと連絡が取れるならその子どもたちにも記念に同じくマラソン、Tシャツを贈ろうとか、まだ通い始めたばかりの子どもにはノートを贈ろうなど、300 回記念に向けて心が躍っていました。そろばん教室は自ら学びたいと思う子どもも通い、それにより計算力を身につける計算に強い子どもを育成するちっちゃな村の云わば進学塾にもなっていました。進学塾というには少し語弊がありますが、ついていけない子は足が遠のいてしまう、そろばんの計算方法がわかり学びたい子どもだけが来れば良いといっしか割り切ったそろばん教室に力を入れていました。そうした中 300 回記念を目前にコロナ禍突入となり、ガーナ政府の打ち出した感染拡大対策で十か月に及ぶ学校の休校、もうこれまで通りそろばん教室は出来ないかと覚悟していました。1月18日、活動再開となり学校に行った日、そろばん教室に通っていた子どもから日曜日にまた教室を望む声がありました。アフターコロナではなく、いまだ先の見えないコロナ禍の中でリスクを

考えると日曜日に村に来ることは出来ないことを告げました。そして今回、この状況でもそろばんの指導が出来る方法は？と考え授業としてそろばんを取り入れることにしました。日曜日にやっていたそろばん教室との違いは『誰一人取り残さない』という指導です。国連が2030年のゴールを目指して掲げたSDGsの言葉でもあります。そろばん教室は、自ら学びたいと思った子どもだけが通い計算力をもっと付けたいと思い頑張っている子どもだけが通えばいい、足が遠のいてしまっても構わないと思っていました。授業でやるからにはすべての子どもがそろばんの計算力が身につけられるように目標がたいへん高いものです。日曜開催のそろばん教室は完全に諦めてしまったわけではありません。またいつの日か「もっとそろばんを学びたい。もっともつと出来るようになりたい。」と思う子どもが通う教室は再会するつもりです。まずはこの状況下で出来るそろばんの指導を大切に日々おこなっていきたいと思います。



協賛



トモエそろばん様

報告 TOSHIKO